

題材名 「チャレンジ・オレで目指すオレ」

第1学年 学級活動（2）

◆本実践の概要

自分自身の目指す姿に向かって月ごとのチャレンジ目標を設定する。1週間ごとに計画し、日々の生活を振り返り、自分では気付かない視点からのアドバイスを触れる。計画を修正しながら、なりたい自分に向かって、どのようなことをしていくかを自分で決め、意思決定していく活動である。

1 題材について

「チャレンジ・オレで目指すオレ」

学級活動（2） 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

自他の個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を発揮しながらよりよい集団生活をつくること。

2 学級活動（1）で育成を目指す資質・能力

- 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。
- 自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見だし、多様な意見を基に自ら意思決定をすることができるようになる。
- 他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしたり、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて悩みや葛藤を乗り越えながら取り組もうとしたりするとともに、将来にわたって自他の健康で安全な生活づくりに配慮しようとする態度を養う。

3 第1学年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解している。	自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見だしている。	他者への尊重と思いやりを深めてより良い人間関係を形成しようとしている。
適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	多様な意見をもとに自ら意思決定している。	他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しを立てたり、振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。

4 題材設定の理由

本学級の生徒は3つの小学校からきた生徒で構成されているが、入学して7ヶ月、持ち前の明るさで仲を深めることができ、中学校生活にも少しずつ慣れ始めてきた。しかし、中学校生活は生徒たちが思っているよりもあっという間に過ぎていくと考える。だからこそ未来をしっかり見つめ、今を大切にすることが必要である。

本題材では「チャレンジ・オレ」という自分自身の目指す姿に向かい、今月のチャレンジ目標を考え実践していくというものである。毎日の評価は 4 段階（4 よくできたー1 できなかった）で評価し、週末は簡単にコメントを書いていくものとしている。また、今回は仲間からのコメント（アドバイス）ももらいながら自己調整ができる場面を入れていきたい。

★チャレンジ・オレについて

個人の目標を1週間ごとに計画し、毎日のチェックしていく。週や月の終わりに振り返りを行い、仲間と交流することで、自分では気付かない視点からの意見や励ましを受け、計画を修正し、次週、翌月に活かしていく取組である。チャレンジ・オレのオレは「オレ」（自分）という意味だけでなく、混ざる（仲間と交流する）という願いも込めている。



5 本時までの活動の流れ

(1) 事前の指導と生徒の活動

日時	生徒の活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿【観点】(評価方法)
事前 (学級活動)	今月のチャレンジ目標を決める。	自分の目指したい姿から逆算させて目標を考えられるようにする。	自分の課題改善に向けて取り組む意義を理解している。【知識・技能】(ワークシート)
事前 (帰りの会)	毎日の評価を付ける(週末はコメントも書く)。	振り返りをさせる中で機械的にならないようにさせる。	評価を付けながら、チャレンジ達成のために必要な改善方法を考えている。【思考・判断・表現】(観察・ワークシート)
本時	他者のアドバイスも踏まえながら活動の振り返りを行う。次回に向けての目標を設定する。	多様な意見を基に自ら意思決定をさせる。	多様な意見を基に自ら意思決定をしている。【思考・判断・表現】 課題解決に向けて、見通しを持った振り返りをしている。【主体的態度】(観察・ワークシート)
事後 (帰りの会)	毎日の評価を付ける(週末はコメントも書く)。	自ら決めた目標を意識させる。	意思決定で決めた目標を実践するための適切な行動がとれている。【知識・技能】(観察)

(2) 本時の指導と生徒の活動

本時のねらい

他者のアドバイスも踏まえながら活動の振り返りを行い、次回に向けての目標を設定する。

	主な活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿【観点】(評価方法)
導入	本時の授業についての流れの確認。		

展
開

「チャレンジ・オレ」の評価を見ながら、できた、できなかった要因を自分で考えてシートに書く。

<生徒の反応>

- ・「評価は2。部活の練習で自分の目標を達成することができなかった。」
- ・自己評価は4。最近、学校に来られるようになってきている。続けていきたい。」等

▶個人で考えてから班の中で発表を伝え合う。

▶仲間からアドバイスをもらう。



<生徒の反応>

・生徒 A の振り返り

「なかなか自主学習が計画的に進めなかった。」

↓

・生徒 B の生徒 A へのアドバイス

「A は部活をがんばっているね。自主学習が進まなかったのは、部活の大会があったからじゃないかな。部活とのバランスを考えて計画するといいかも。土日の使い方も大切だね。」

アドバイス等をメモする。

自分の振り返りや仲間のアドバイスから総合的な評価を行おう。

▶全体で共有(数人)

自分なりに分析ができるよう声かけをする。

グループの話合いの手順


- ① 今週の目標を伝えて、自己評価を伝える。
- ② 班員がアドバイスを送る。他の班員と同じアドバイスにならないように、様々な視点で考える。
- ③ 班員からのアドバイスをメモし、来週へのチャレンジに生かしていく。

様々な角度からのアドバイスが送れるように支援する。

- ① 具体的なアドバイスができない場合でも励ましのコメントを言うようにする。
- ② うまく振り返りができない生徒には、来週の取組の助言でなく、今週の振り返りの視点や整理の方法を伝える。

○多様な意見をもとに考えられている。

【思考・判断・表現】
(観察・ワークシート)

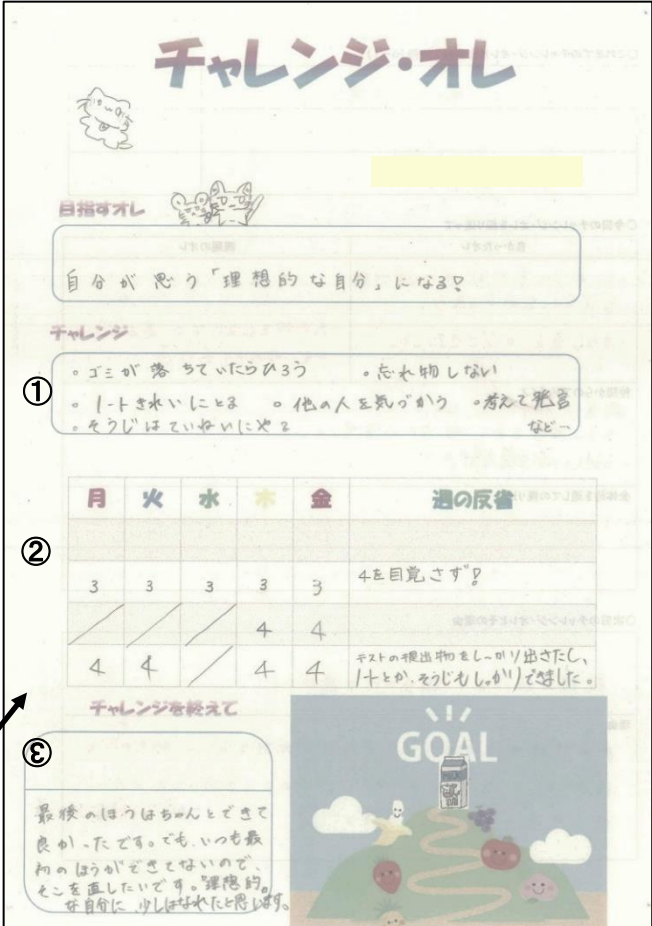
			<p>○課題解決に向けて振り返りをしている。 【主体的態度】 (観察)</p>
<p>終末</p>	<p>本時の活動をもとに次回のチャレンジ目標を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>生徒Cの目標設定 「朝から教室にいることに自信がもてた。今週、話をすることができたことが自信となった。来週はいろいろな人と話をしていきたい。」</p> </div> <p>▶理由を明確にして、目標を設定する。 ▶全体で共有(数人)</p>	<p>自分で決めた目標を達成することの大切さを伝える。</p>	

6 実践を振り返って

本事例では、仲間からのアドバイスを基に振り返りの場面を仕組み、自己調整していくようにした。今回のように掲示をしたり、毎日のように評価を付けたりすることで、自分で決めた目標を達成しようとする意識がこれまで以上に見られた。また、仲間との交流を通して様々な角度からの意見を聞くことで、自分では思い付くこともできなかった発想にもつながっていったと考える。今回の実践は、特別なことをするのではなく、日頃の実践を年間通して行えないかと考えたものである。今後も継続して取り組みつつ、これらを利用してコミュニケーション力も同時に高めていきたいと思う。

また、今回使用したワークシートは単級あるいは学年で統一し、キャリア・パスポートとの連携も計画していきたい。

- ①チャレンジ・・・「目指すオレ」になるために具体的にチャレンジすること
- ②日々の振り返り・・・チャレンジの内容を数値で自己評価する。
- ③1週間の振り返り



▲「チャレンジ・オレ」のワークシート